

## 運 営 推 進 会 議 報 告 書

開催予定日時 令和3年09月30日(木)		時 分～	時 分
資料配布者		議 題	
利用者	1名	・デイサービス事業報告	
学職経験者	1名	・避難訓練について	
市職員	1名	・コロナウイルス感染予防対策について	
地域包括支援センター	1名	・個別機能訓練の取り組みについて	
事業所	1名	・ヒヤリハット報告	
資料配布内容			
<p>1. 運営状況報告</p> <p>登録者数：令和3年9月13日時点の利用者数・介護度別</p> <p>利用者合計：102名</p> <p>介護度：介護1（28名）、介護2（13名）、介護3（2名）、介護4（1名）、介護5（0名）</p> <p>支援1（21名）、支援2（18名）、事業対象者（19名）</p> <p>従業員数：管理者1名、生活相談員2名、看護師2名、理学療法士1名、介護士5名、運転士1名</p> <p>2. 避難訓練について</p> <p>年に2回、避難訓練を行っており、今年4月には震度4の東海大地震を想定した訓練を行いました。10月は事業所裏の草むらからの火事を想定した訓練を行う予定です。</p> <p>3. コロナウイルス感染予防対策について</p> <p>当事業所ではコロナウイルス感染予防対策として、来所前の自宅での検温、検温されていないご利用者様には送迎車乗車前に検温、37.5度以上の熱がある方にはご利用を控えていただき、すべてのご利用者様に送迎車乗車前の手指消毒、マスクの着用、来所時の手洗い・うがい、手指消毒のご協力をお願いしています。お茶を飲まれる際にマスクを外されるため、飛沫防止の亚克力板を設置し、窓を開け、空気清浄機を使用し常時換気を行っています。当職員もこまめな手洗い・手指消毒、マスクの着用を行っています。ご利用者様のご協力のもと細心の注意を払い感染予防対策を行っています。</p>			

#### 4. 個別機能訓練の取り組みについて

##### 機能訓練の実施状況 事例紹介

**K 様** 83歳 男性 要支援2 病歴：腰部脊柱管狭窄症 頰椎症性脊髄症 高血圧症 うっ血性心不全

症状：腰部脊柱管狭窄症、頰椎症性脊髄症から両下垂足がみられ右足の躓きがみられる

現在の移動時の様子：歩行器または2本杖を使用

現在に至るまで：平成4年腰部脊柱管狭窄症、平成27年頰椎症性脊髄症の手術施行。リハビリ病院転院後、腸の病気が見つかり再入院され、リハビリは途中の段階で終了となる。退院後は訪問リハビリを利用されていたが、要介護から要支援となり訪問リハビリも終了となる。足の招きが悪くなり屋内外の移動には歩行器を使用。ご本人の希望は「2本杖で、いつかは1本杖で屋内外を歩くこと」のためデイサービスフロア内の移動は見守りのもと2本杖を使用。移動動作や移乗動作は職員の介助は必要ない状態であったが、歩行や方向転換時は後方へのふらつきが強く、転倒の危険が高い状態であった。マシンによる全身の筋力トレーニング（特に下肢抗重力筋）、プレミアムジムとサイクルチェアによる可動域維持とバランス力・全身持久力向上、平行棒内歩行によりバランス力・方向転換時の転倒予防（安定した歩行パターンの獲得）を実施し、現在はデイサービスフロア内の移動は2本杖を使用し、安定した歩行で移動されるまで向上されている。

**M 様** 62歳 男性 要介護1

病歴：脳出血後遺症 第2腰椎圧迫骨折 糖尿病 高血圧症 左多発塞栓性脳梗塞

現在の移動のご様子：歩行器または4点杖を使用

現在に至るまで：脳出血にて入院。平成27年に2回目の脳出血で入院され、回復期病院に転院。右上肢手指重度、右下肢中程度の麻痺がある。左手指、両下肢、体幹軽度拘縮。不随運動、協調運動障害、左上下肢にあり。音声、発話障害、構音障害、高次脳機能障害（注意障害・語想起低下）、疼痛（右膝関節）あり。令和2年7月に自宅風呂場で転倒され腰椎圧迫骨折、令和2年11月左多発塞栓性脳梗塞で入院。退院後デイサービス再開となる。屋内移動は車椅子か4点杖を使用。屋外移動は車椅子を使用。右半身麻痺のため右のハンドリムを外し操作が容易にしてあり、自走で移動。本人希望は「4点杖や歩行器で歩けるようになりたい」のため、4点杖でのデイサービスフロア内歩行訓練を実施。4点杖での歩行はふらつきが強く、転倒の危険が高い状態であった。職員見守りのもと、4点杖でフロア内2周を安定した歩行で移動されるまで向上。歩行器をレンタルし、デイサービスご利用時は屋内外の移動が車椅子から歩行器となった。

5. ヒヤリハット・事故報告

起きた後の事故へつながらないための防止策

<p>平行棒での訓練時</p> <p>平行棒と壁の間に踏み台を置き、跨ぎ訓練の際、滑り止めの無い靴下を履いていたため、跨いだ足が滑り、そのまま踏み台の上に座り込んでしまう</p>	<p>対応策</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・誘導を行った職員は、安全を確認したうえで訓練を行っていただく</li></ul>
<p>体力測定時</p> <p>片足立ちの体力測定を行う際、立ち上がった状態で前方に椅子を置き、椅子の背を両手で掴み、体を支えながら片足上げを測定後、足を下げる際に体が大きく右に傾き、バランスを崩され転倒しそうになられ、左脇に手を入れ、抱きかかえるように介助した</p>	<p>対応策</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前方に職員、両サイドに椅子を置き、バランスを崩された際にはすぐに手をつける環境で行う</li><li>・体力測定の見直しを行う</li></ul>
<p>送迎時</p> <p>ご自宅にお送りした際、送迎車から降りた後、杖を使用せずご自宅のフェンスを握ろうとされ、ふらつかれた</p>	<p>対応策</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・送迎車とフェンスの間に職員が立ち、降りた際にすぐ杖を使用していただくよう声掛けを行う</li></ul>

※運営推進会議はコロナウイルス感染予防対策といたしまして、今回は開催を中止させていただきました。会議で予定しておりました報告内容を参加予定者に配布し、ご意見をいただきました。

ご意見・ご質問

(瀬戸市役所 健康福祉部 高齢者福祉課)

・避難訓練実施内容に①リーダー職員が指揮をとることができるか、②職員が的確に誘導を行うことができるか、のふたつについて、総合的な評価はどうだったのでしょうか。また、来年の地震避難訓練に、今回の感想や反省点を具体的にどのように活かしていきたいと考えてみえますか。

→総合的な評価ですが、リーダー職員が的確な指示を出すことができず、職員が戸惑ってしまう場面がありました。職員同士協力し合い、声を掛け合うことで的確な誘導を行うことができました。

→年に一度の訓練では感想や反省点を忘れてしまいがちになるため、10月に行う火災の避難訓練時に、地震避難訓練時の感想や反省点を見直す機会を作るなど、定期的に見直すことで感想や反省点を活かしていけるようにしていきます。

(地域包括支援センターしなの)

・新型コロナウイルス感染予防については、引き続き対策を徹底していただくようお願いします。

→今後も対策を徹底し、感染予防に努めていきます。

(理学療法士・学識経験者)

・デイサービスを利用されている方は生活期リハビリテーションのステージに該当する方が多いと思います。

生活期のリハビリテーションは、加齢や生活不活発による身体機能の低下、特に筋力や歩く能力を維持することが重要です。それに加えて、身体機能の向上には時間を要しますし、人によっては困難な場合もあります。

今回の症例報告のように補助具(杖の種類や歩行器など)を積極的に活用し、今持っている機能でも生活できるように工夫することはとても重要なことと思います。今後もグループでできることと個別にリハビリを行うことを組み合わせて利用者の自立に向けた取り組みを行っていただきたいと思います。

(利用者 K 様)

・コロナウイルス感染予防対策は万全だと思っています。安心して通えています。

→今後も皆様のご協力のもと、感染予防対策をしっかり行っていきます。

・ケアマネジャーから人気ナンバー1のリハビリデイサービスだと聞きました。通えて嬉しいです。運動量はへとへとになるわけでもなく私にはちょうど良いです。家で転んでからは、運動についていけるか不安でしたが、丁寧に対応してくださって、今では体力・筋力もゆるやかに上がってきていると感じています。

→歩行状態も安定してきました。今後も体の状態に合わせた運動を継続していき、安心して自宅での生活を送っていただけるよう支援させていただきます。

(品野民生委員協議会)

・いつもきめ細かく運営されていると感心しております。

→ありがとうございます。今後も利用者様に満足していただけるよう職員一丸となって頑張ります。